

京都・琵琶湖キリシタン史跡の旅に参加して

教会員・藤島一子

7月の中旬にツアーで京都と滋賀を旅することができました。猛暑を覚悟して行ったものの、琵琶湖の風は気持ちよく、また京都御所の緑陰は心和むものでした。滋賀の旅のメインは琵琶湖に沿った長浜、彦根、近江八幡でした。さすが日本一の湖であるせいか湖畔に立つと、松浜の浜辺から佐渡を望むような錯覚を覚えるほどの広さでした。

長浜は豊臣秀吉が造った町ですが、長浜城やその城下町を見学し、翌日は幕末に幕府の大老となった井伊直弼が藩主だった彦根に入りました。ここでは90歳を過ぎた方が案内ボランティアをしてくださり、彦根カトリック教会(彦根藩の家老屋敷跡)や彦根教会を見学しました。またスミス記念堂は、彦根城のお堀のそばに立つ和風建築の教会でした。1931年(昭和6年)にパーシー・アルメリン・スミス宣教師により建立された建物で、宮大工の手により建築され、和洋の様式が渾然一体となった独特の雰囲気醸成を醸成してしていました。北新潟キリスト教会も日本庭園を擁する和風建築の多目的館とチャペル(礼拝堂)からなっていますが、何か共通なものを感じました。続いて、近江八幡市安土町にある安土城跡とセミナリオ(神学校)跡を訪れました。安土城は1579年、織田信長の命によって建築された世界で初めての木造高層建築といわれ、高さ46メートルの壮大で絢爛豪華な様子はキリスト教宣教師も称賛しましたが、築後以来わずか3年で安土城は焼失しました。

次に向かったのは、ボーリズ建築が現存する近江八幡でした。和の文化が色濃く残る近江八幡の街の中には異国情緒溢れる洋風建築が数多く点在しています。それらの建築の設計を手がけたのが、建築家でありキリスト教の伝道者であったウィリアム・メレル・ボーリズです。彼は1919年に小野藩主であった一柳末徳子爵の三女満喜子と結婚しますが、その経緯は朝の連続テレビ小説「あさ

が来た」で紹介されていました。満喜子の兄が浅子の長女の婿であることから、大同生命ビルを建築していくことになります。私たちは、旧八幡郵便局や近江八幡教会牧師館、市立資料館などを見学しました。

そしていよいよ3日目は、新島襄の同志社大学の見学でした。ここは、2013年NHKの大河ドラマ「八重の桜」で放送されましたが、京都御所のすぐ脇の薩摩藩邸があった場所に同志社大学があります。新島は幕末期に激動する日本の将来を憂い、国禁を犯して脱国し、約10年間にわたってアメリカ、ヨーロッパで学び、キリスト教の洗礼を受けて帰国。そして、国内外の多くの協力を得て明治8年、京都のここで同志社の前身となる同志社英学校を設立したのです。学問の探求とともにキリスト教を徳育の基本として人格を陶冶する教育機関を目指しました。現在までに30万人の卒業生を各界に送り出しています。ちょうど夏休みも近いキャンパスは学生たちであふれ、若い彼らの瞳の中に、これからの日本を背負って立つ気合が感じられました。

このような盛りだくさんの旅でしたが、長年思いをためていた地だっただけに本当に思い出に残るものとなりました。

《北新潟キリスト教会の集会案内(毎週)》

主日礼拝：日曜日午前10：30～12：00

教会学校：日曜日午前 9：30～10：00

聖書の学びと祈り会：水曜日午後7：30～9：00

聖書を読む会：木曜日午前10：30～12：00



〒950-3112 新潟市北区太夫浜2040-1

日本同盟基督教団 北新潟キリスト教会、牧師・原山康伸

TEL 025(259)4491 (旧松浜教会、附属さんび園同窓会事務所)

<ホームページ><http://www.kitaniigata-church.com>